

rfoil施工要領 屋根

1. タルキ上端に rfoilを施工した場合

1



- ①タルキの上端にrfoilを敷き込み、タッカーで留める。
- ②タルキ上端のエアーキャップ部は、ロール釘や剣山等につぶす

3



- ④屋根野地合板を、1列張り付ける
- ⑤2列目のrfoilを施工する
- ⑥ジョイント部は、アルミテープで接続する



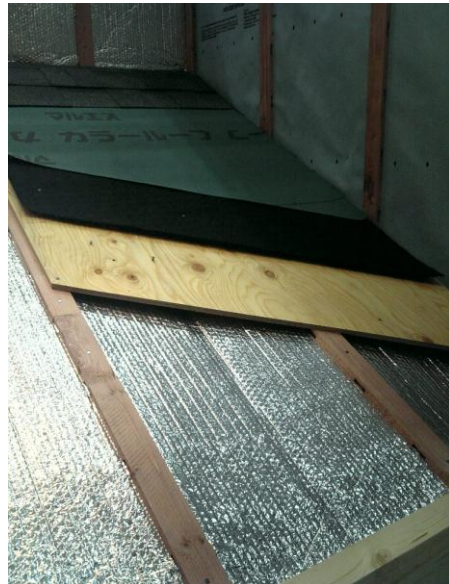
■注意:必ず、軒先と屋根上部に上記の様な通気開口を設けること。rfoil両面の通気を確保することが重要です。

2



- ③胴縁をタルキ上端に取り付ける

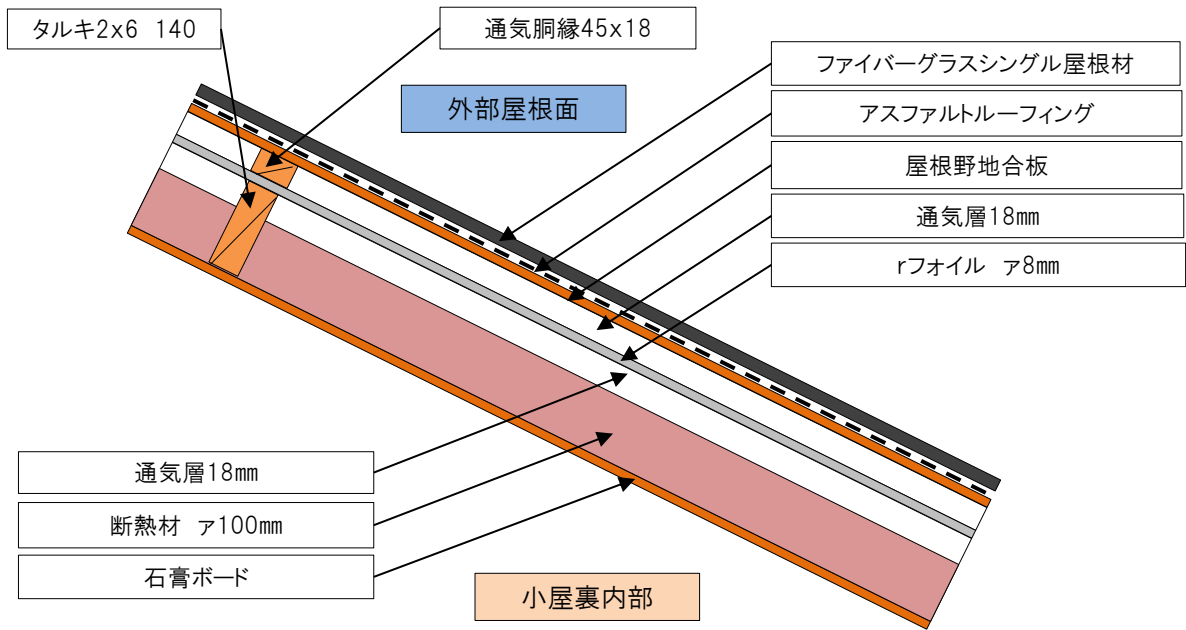
施工例写真



rfoil施工、胴縁取付、屋根合板施工完了時の状態

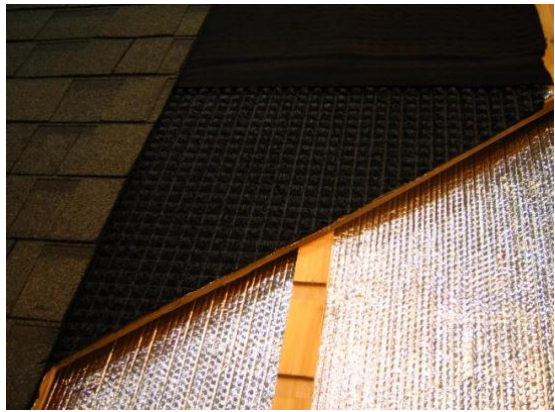
■特記:上記のルーフィングの下の材料は「ウエザーバリアー」屋根通気材です。併用することで、外壁部からの通気が完全に確保されます。

■タルキ上端に、rフویلを施工した場合の断面図（小屋裏使用の場合）



屋根rフویل施工断面図

施工例写真



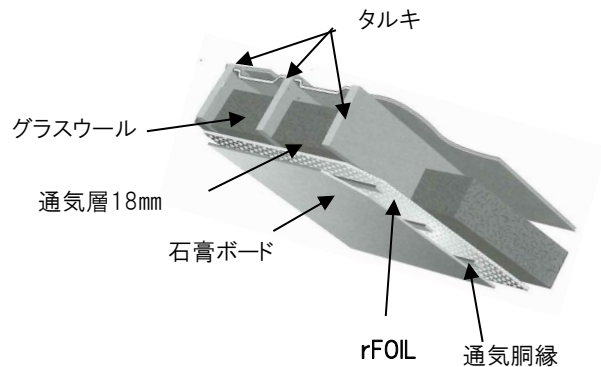
2. タルキ下端に rフォイルを施工した場合

■施工方法① 小屋裏利用しない場合

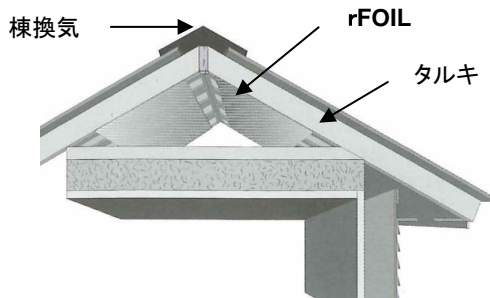


- ①上記の様に、タルキ下端にrフォイルを取り付ける。そのままタッカー留めとする。
- ②屋根面で断熱する場合、タルキ内の断熱材とrフォイルの間には、必ず通気層を確保すること。

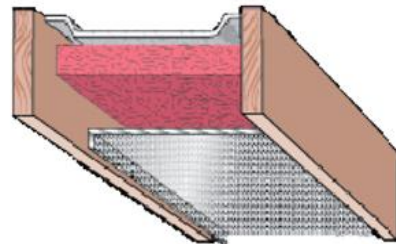
■施工方法② 小屋裏利用の場合1



- ①上図の様に小屋裏利用で室内を仕上げる場合は、胴縁をrフォイルの上に取り付け、その上に、石膏ボードを貼る。
- ②断熱材とrフォイルの間には、必ず通気層をとること。通気層は18mm以上とする。



■施工方法③ 小屋裏利用の場合2



- ①上図の様にrフォイルをタルキ間にコの字型に折り曲げ、タルキ側面にタッカーで留めた後、石膏ボードを貼る。
- ②断熱材とrフォイルの間及び、rフォイルと石膏ボードの間には、必ず通気層をとること。通気層は18mm以上とする。



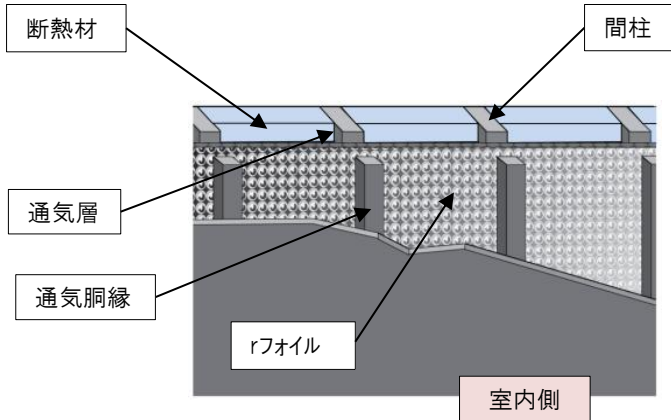
施工例写真

■重要: 上記施工方法①～③のいずれの方法で施工した場合でも、rフォイルの両面に通気層を設けることが、結露防止、遮熱効果を最大限に引き出す為に、重要です。

rフイル施工要領 壁

1. 外壁の内部側に rフイルを施工した場合

施工方法① 間柱の上に施工した場合



①断熱材を施工後、間柱の上にrフイルを取り付ける。

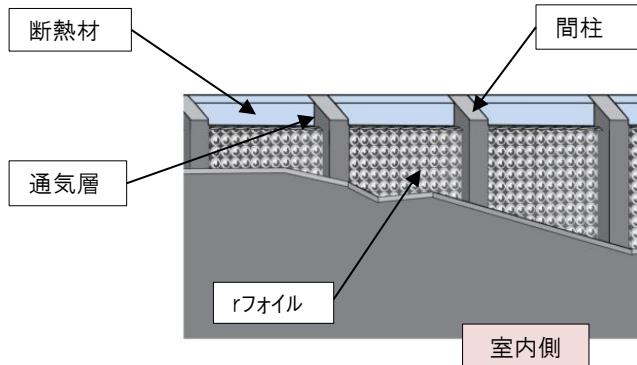
②必ず断熱材とrフイルの間に、通气層を18mm以上確保する。

③rフイルの上に胴縁を施工後、石膏ボードを施工する。



施工例写真

施工方法② 間柱間に施工した場合



①断熱材施工後、外壁の間柱間にrフイルをコの字型に折り曲げ、間柱側面にタッカー留めする。

②必ず断熱材とrフイルの間に通气層を18mm以上確保する。

③必ず折り曲げ部のrフイルとボードの間に、通气層を18mm以上確保すること。

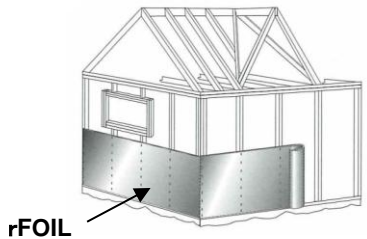
④rフイル施工後、石膏ボードを施工する。



施工例写真

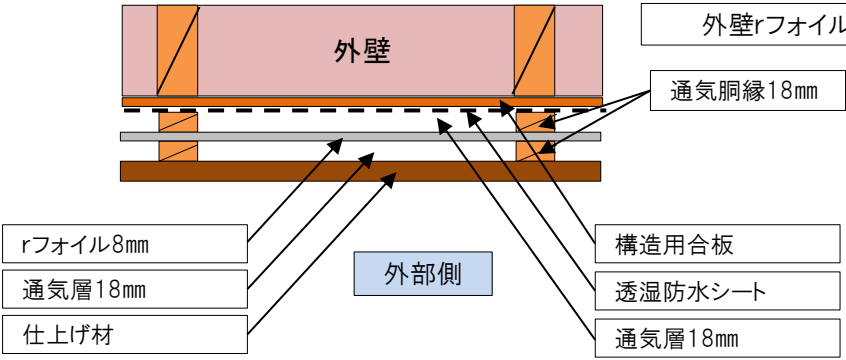
■重要：上記施工方法①②のいずれの方法で施工した場合でも、rフイルの両面に通气層を設けることが、結露防止、遮熱効果を最大限に引き出す為に、重要です。

2. 外壁の外部側に rフォイルを施工した場合



内部側

- ①外部通気層の胴縁の上に、rフォイルをタッカー留めする。
エアーキャップ部はロール釘、剣山等でつぶす
 - ②rフォイルの上に通気胴縁を施工する
 - ③通気胴縁の上に外部仕上材を施工する。
- ※必ずrフォイルの両面に通気層を18mm以上設けること。



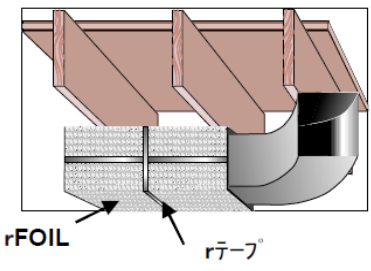
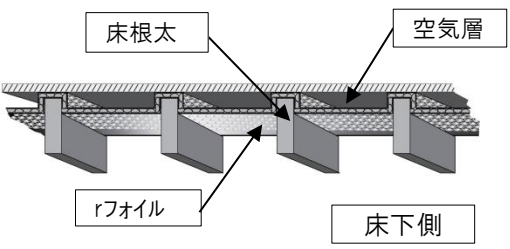
外壁rフォイル施工断面図(2x4工法)

■注：遮熱材rフォイルは、透湿防水シート及び、断熱材ではありません。必ず別途、透湿防水シート及び断熱材の施工を行って下さい。

施工例写真



rフォイル施工要領 床、ダクト



●断熱材は別途考慮のこと

